

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23520582

研究課題名(和文) 英語感情メタファーの認知構造と意味の複合性

研究課題名(英文) Metaphor of Emotions in English: Its Cognitive Structure and Semantic Complexity

研究代表者

大森 文子 (OMORI, Ayako)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・准教授

研究者番号：70213866

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、感情を理解するための概念メタファーの構造と写像の仕組みを、言語データの質的解析および量的解析の両方を通して探究するものである。認知メタファー論の理論的枠組および認知詩学の方法論を援用し、大規模コーパスや英詩などの文学作品、聖書、辞典などから、歴史的文献学の知見を基に収集した用例の分析を通して、四大元素や動物の概念領域と感情領域の間の構造的な写像関係を明らかにした。研究成果が認められ、研究代表者は博士(文学)の学位が授与された。また研究分担者は国際英語正教授連盟(IAUPE)の会員に任命され、2016年に連合王国ロンドン大学で開催される大会で発表を行うことになった。

研究成果の概要(英文)：This collaborated research is an investigation of the structure of conceptual metaphors for the emotions, supported by the theoretical framework of the cognitive linguistic researches on metaphor and cognitive poetics.

Both ordinary and literary language data retrieved from such large electronic corpora as British National Corpus and smaller corpora including literary works, mainly English poetry, and dictionaries, collected and classified with philological considerations, demonstrate the systematic correspondences between the "source" conceptual domains of NATURAL PHENOMENA and ANIMALS and the "target" conceptual domain of EMOTIONS.

During the research period the representative researcher obtained a doctoral degree from Osaka University. The joint researcher was appointed as a member of the International Association of University Professors of English, and is going to read two papers in the Triennial Conference of IAUPE 2016 held at London University.

研究分野：認知言語学

キーワード：メタファー 感情 コーパス 英詩 認知言語学 認知詩学 翻訳

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、前回の科学研究費補助金(2007~2010)による研究で、思考を司る概念メタファーを反映する言語データを、大規模電子コーパスから網羅的に収集、分析することにより、抽象的概念領域を具体的概念領域からのメタファー写像により理解する人間の創造的概念形成のメカニズムの解明を目指して研究を遂行し、その成果を国内外に発表した。この研究により、メタファーの言語データの量的解析に関する方法論を確立し、本研究目的の達成の足がかりを得た。なかでも特筆すべきは、国際誌 *Metaphor and Symbol* に掲載された感情メタファーに関する研究(2008)である。研究代表者は、2つの名詞句が前置詞 of で結びつけられた慣習的なメタファー表現を大規模コーパス(BNC)から検索し、分析した結果、過去20年間、英語感情メタファーについて概念メタファー理論の立場から基本的な著作を発表してきた Kövecses (1990, 2000, etc.) のモデルに代わる、以下のような新説を提示した。(1) <感情>という目標領域と写像関係で結ばれる主要な根源領域は<自然現象>、中でも<海>や<河川>のような<自然界で流動する大量の水>である。Kövecses の言う<容器内の熱湯>ではない。(2) コーパスデータからは、<怒り>がプロトタイプの感情のひとつと見なす Kövecses の見解に対する反証が得られる。<自然現象>に由来するメタファー表現を四大元素(地・水・火・風(=大気))の概念ごとに分類し、それらの下位領域の分布の観点から見ると、プロトタイプに最も近い感情は<不安>と<安堵>であり、<欲望>と<喜び>がそれに続く。<欲望>と<喜び>は高い類似性を持ち、一方<欲望>と<希望>は、多くの類義語辞典の分類と異なり、全く異なる感情である。<希望><絶望><怒り>は、<水>に由来する例の頻度が著しく低いという点で、プロトタイプから大きくはずれ、根源領域の分布に関して個別の特徴を見せる。

上記の分析結果は、従来認知言語学の枠組を用いたメタファー研究一般の方法論に異議を唱える Deignan (2005) *Metaphor and Corpus Linguistics* (John Benjamins) の主張に触発されて遂行した研究の成果である。認知的メタファー論者は伝統的に、研究者自身の内省的言語経験に基づく直観により生み出したデータを用いて議論するが、研究者が直観に基づいて作り出した表現例とコーパス内で頻度の高い表現には食い違いがあるという Deignan の議論の妥当性を本研究代表者は感情メタファー研究において立証し、概念メタファーに基づいて形成される感情カテゴリーの内部構造について、新たな提言を学界に示すことができた。

2. 研究の目的

本研究課題は、人間の精神、とりわけ感情

を理解するための概念メタファーの構造と写像の仕組みを、言語データの質的解析および量的解析の両方を通して探究するものである。量的解析は、本研究代表者が数年にわたって遂行してきた大規模コーパスからの収集データの分析を継続し、特にコロケーションの仕組みに着目しながら発展させ、質的解析としては、英詩などの文学作品におけるメタファー表現の意味の複合性を「認知詩学」の見地から分析し、量的解析の裏づけを行うことにより、日常言語、文学の言語の両方の成立基盤となるメタファーの認知メカニズムの解明を目指す。

3. 研究の方法

本研究では、感情を理解するための概念メタファーの構造と写像の仕組みを、British National Corpus (BNC) や Corpus of Contemporary American English (COCA) などの大規模コーパスのデータ、英詩などの文学作品、辞書などの小規模コーパスに記載された慣用表現を研究対象とし、収集用例を分類し分析した。また、動物メタファー研究の一環として、19世紀に英国で相次いで出版された一連の動物寓意詩を翻訳し、認知メタファー論からの比喩義の分析を実施した。また、近年学界で注目を集め出した認知詩学の研究動向を本研究に援用した。

4. 研究成果

大規模コーパスを用いたメタファー研究の成果としては、英語感情メタファーの認知構造に関するコーパスデータの解析に基づく考察をまとめた論文が、Peter Lang から刊行の感情研究をテーマとした学術書 *Dynamicity in Emotion Concepts* に掲載された。本論文は、<喜び><悲しみ><希望><絶望><恐怖>の5つの個別感情を表す語が自然現象を指す語と前置詞 of で結びつくタイプの慣習的メタファー表現をBNCより収集、分析し、対義概念関係にある感情概念のペアの対立が、用いられる根源領域の相違の観点から特徴づけられること、一般的に対義とは認識されていない感情ペアの対義関係が根源領域の相違の観点から特徴づけられること、一般的に類義語とは見なされていない感情どうしの類義関係が写像の類似性の観点から明らかになることを示したものである。

また、大阪大学大学院文学研究科に提出した博士学位申請論文が審査に合格し、博士(文学)の学位が授与され、博士論文に基づき執筆した研究書 *Metaphor of Emotions in English: With Special Reference to the Natural World and the Animal Kingdom as Their Source Domains* がひつじ書房より刊行された。本書では、従来認知メタファー論者が用いてきたような内省に基づく作例ではなく、大規模電子コーパスから抽出された高頻度の例や、英詩などの文学作品、辞書などの小規模コーパスにおける慣用表現を分析する方が、本来

の認知メタファー理論の理念に合致するという観点から、広く日常言語、文学の言語を研究対象とし、従来にならぬ認知モデルを提唱した。本書にも収められた、Milton, *Paradise Lost* の叙事詩的比喻における墮天使 Lucifer の変容をメタファー構造の観点から説明した研究は大きな反響を呼び、学位論文審査員の高い評価を得た。同テーマで学会の招待発表依頼も受けた。また 2013 年には日本英文学会の編集委員(英語学部門)に選出された。

加えて、本研究課題の研究方法に多大な示唆を与えた Hans Lindquist 著のコーパス言語学の学術書を、研究分担者を中心とする 4 名のメンバーで輪読・翻訳し、大修館書店より『英語コーパスを活用した言語研究』と題する翻訳書を刊行した。

文学作品テキストの質的分析としては、動物メタファー研究の一環として、19 世紀に英国で出版の動物寓意詩を翻訳し、認知メタファー論からの比喻義の分析を実施した。この一連の動物寓意詩は、これまであまり注目されることがなかったが、動物メタファーの意味を探究する上で示唆に富む豊かな寓意を包含したきわめて重要なテキストである。これらの詩に見られる動物界の各種グループ内の比喻義の関係を考察し、擬人化と寓意のメタファーの分析結果を大阪大学大学院言語文化研究科が発行する共同研究プロジェクト報告書に発表した。

また、近年学界で注目を集め出した認知詩学の研究を進め、阪大英文学会第 46 回大会におけるシンポジウム「英語のデザインを読む」では講師として招聘され、本研究課題で確立した方法論を援用したシェイクスピアのメタファーに関する認知文体論研究の成果を発表し、この口頭発表原稿を改訂した和文論文を発表した。研究代表者は大阪大学言語文化研究科で言語文化レトリック研究会を主催しているが、ここでの発表内容を「認知詩学とスキーマ」と題する論文にまとめた。朝倉書店から 2017 年に刊行される『認知言語学大事典』の「認知詩学」の項目の執筆を依頼され、原稿を提出した。

研究分担者の古英詩 *Beowulf* の身体部位名メタファー研究については、2012 年に国際学会 SHELL 2012 において英語で発表後、2013 年に改訂英文論文を Peter Lang 社から出版された英語史研究論文集に掲載した。この発表内容が認められて国際英語正教授連盟 (IAUPE) の会員に推薦され、2014 年より会員、2016 年 7 月の連合王国 King's College, University of London での大会で発表を行うことになった。大会に先行する中世英語シンポジウムにおいても *Beowulf* のメタファーについて発表予定である。また *Beowulf* 研究の成果が認められて、日本中世英語英文学会の評議員に 2016 年に再選された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文](計 19 件)

大森文子 「讚美のメタファーの形式と意味：Shakespeare の *Sonnets* における太陽のメタファーをめぐって」『意味と形式のはざま』大庭幸男、岡田禎之編、英宝社、査読無、2011、281-294.

大森文子 「墮天使の変容と感情：*Paradise Lost* におけるメタファーの構造的なめくって」『文化とレトリック認識 言語文化共同研究プロジェクト 2010』大阪大学言語文化研究科、査読無、2011、21-34.

渡辺秀樹 「シェイクスピアにおける賞賛と罵倒のレトリック動物名人間比喻用法の対義・類義の構造」『文化とレトリック認識 言語文化共同研究プロジェクト 2010』大阪大学言語文化研究科、査読無、2011、1-20.

渡辺秀樹・大森文子 「19 世紀英国児童向け動物寓意詩の翻訳とメタファー論考 *The Feast of the Fishes or The Whale's Invitation to his Brethren of the Deep.*」『トポスのレトリック—場所・定型表現・認知 言語文化共同研究プロジェクト 2011』大阪大学言語文化研究科、査読無、2012、9-58.

大森文子 「動物界の王者とトポス：英語動物名の比喻義の構造 共同研究 英語動物名のメタファー (12)」『トポスのレトリック—場所・定型表現・認知 言語文化共同研究プロジェクト 2011』大阪大学言語文化研究科、査読無、2012、59-70.

Ayako Omori “Conventional Metaphors for Antonymous Emotion Concepts,” *Dynamism in Emotion Concepts* (Łódź Studies in Language 27), ed. by Paul Wilson, Peter Lang, 査読有、2012、183-204.

大森文子 「馬の象徴的意味と比喻：共同研究 英語動物名のメタファー (15)」『レトリックの伝統と伝搬 言語文化共同研究プロジェクト 2012』大阪大学言語文化研究科、査読無、2013、19-28.

Hideki Watanabe “*Folm, hand and mund in Beowulf* Reconsidered: symbolism and Synecdoche for the hands in Heorot” *Phases of the History of English*. Oxford: Peter Lang 査読有、2013、229-240.

Hideki Watanabe “Review of Seamus Heaney's *Beowulf: A New Translation.*” In *Beowulf at Kalamazoo: Essays on Translation and Performance*, ed. by Jana K. Schulman and Paul E. Szarmach. Western Michigan

University, 査読有、2013、379-385.

渡辺秀樹・大森文子「19世紀英国動物寓意詩 The Jackdaw at Home 全訳・注釈・メタファー論考」『テキストのレトリック 文化のレトリック—修辞・思想・翻訳 言語文化共同研究プロジェクト2013』大阪大学言語文化研究科、査読無、2014、1-30.

大森文子「Milton の叙事詩的比喩とメタファー認識」『言葉のしんそう(深層・真相):大庭幸男教授退職記念論文集』岡田禎之編、英宝社。査読無、2015、385-397.

大森文子「認知詩学とスキーマ」『レトリックと英語の語彙 言語文化共同研究プロジェクト2014』大阪大学言語文化研究科、査読無、2015、15-22.

大森文子「メタファーのデザイン」『英語のデザインを読む』沖田知子、米本弘一編、英宝社。査読無、2015、106-118.

大森文子「間テキスト性への感性を磨く:尾形侑」『座の文学:連衆心と俳諧の成立』講談社学術文庫、1997. 380pp.」(書評論文)『英文学研究 支部統合号』7巻、査読無、2015、211-214.

渡辺秀樹「赤野一郎、堀正広、投野由紀夫編『英語教師のためのコーパス活用ガイド』大修館 2014年 242ページ」(書評論文)『英文学研究』92巻、依頼執筆、2015、190-94.

渡辺秀樹「19世紀英国動物寓意詩 THE COUNCIL OF DOGS. (1808) 本文校訂・脚注・日本語訳」『越境するレトリック—意味・認識・間テキスト性 言語文化共同研究プロジェクト2015』大阪大学言語文化研究科 1-18.

大森文子「犬の寓意詩 The Council of Dogs における擬人化と寓意のメタファー」『越境するレトリック—意味・認識・間テキスト性 言語文化共同研究プロジェクト2015』大阪大学言語文化研究科 19-34.

大森文子「認知詩学」『認知詩学大事典』朝倉書店。(印刷中) 依頼執筆

Hideki Watanabe, Review article: “J. R. R. Tolkien, *Beowulf*: a translation and commentary together with Sellic Spell. Edited by Christopher Tolkien.” *Studies in Medieval English Language and Literature* 31, In printing. 査読有

[学会発表](計6件)

大森文子「感情の慣習メタファーと写像の

特性」関西言語学会第36回大会、2011年6月12日、大阪府立大学(大阪府堺市)。(招聘発表)

大森文子「コーパスを用いたメタファー研究の方法と可能性」日本英文学会関西支部第6回大会シンポジウム『認知メタファー理論は Deignan の批判にどのように応えるのか:言語と認知の乖離を超えるコーパス・メタファー研究の展望』(司会・講師:鍋島弘治朗、講師:谷口一美、大森文子、大石亨)2011年12月18日、関西大学(大阪府吹田市)。

大森文子「墮天使の変容とメタファー思考: *Paradise Lost* における叙事詩的比喩をめぐって」阪大英文学会第45回大会、2012年10月20日、大阪大学(大阪府豊中市)。

Hideki Watanabe “*Folm, hand and mund in Beowulf* Reconsidered: symbolism and Synecdoche for the hands in Heorot” SHELL 2012、2012年9月2日、慶應義塾大学三田校舎(東京都港区)。

大森文子「太陽の詩的意味とメタファーのデザイン」第46回阪大英文学会シンポジウム『英語のデザインを読む』(司会:米本弘一、講師:家木康宏、大森文子、馬淵恵里)2013年10月19日、大阪大学(大阪府豊中市)。

渡辺秀樹「J. R. R. Tolkien の散文現代英語訳 *Beowulf* (2014) の文体論考」日本中世英語英文学会東支部第31回研究発表会、2015年6月27日、東北公益文科大学(山形県酒田市)。

[図書](計3件)

渡辺秀樹、ひつじ書房「英語史とコロケーション」堀正広編『これからのコロケーション研究』2011、第5章、153-192.

Ayako Omori、ひつじ書房、*Metaphor of Emotions in English: With Special Reference to the Natural World and the Animal Kingdom as Their Source Domains*, 2015、218ページ.

渡辺秀樹・大森文子・加野まきみ・小塚良孝訳、大修館書店『英語コーパスを活用した言語研究』2016、242ページ.

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:

出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大森 文子 (OMORI, Ayako)
大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授
研究者番号：70213866

(2) 研究分担者

渡辺 秀樹 (WATANABE, Hideki)
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号：30191787

(3) 連携研究者

()

研究者番号：